

食貨志彙編

南洋洲鐵道株式會社
調查部

食貨志彙編

南滿洲鐵道株式會社

調查部

昭和十七年二月五日印刷
昭和十七年二月十日發行

著 作 人
大連市榲町四八番地
菊 地 清

發 行 人
大連市伏見町一四番地
阪 口 麓

印 刷 人
大連市東公園町三一番地
池 田 芳 介

印 刷 所
大連市東公園町三一番地
滿洲日日新聞社印刷所

發 行 所
南滿洲鐵道株式會社

序

一、本書は支那歷代食貨志を彙輯せるものである。收むるに史記、漢書、晉書、魏書、隋書、舊唐書、新唐書、舊五代史、宋史、遼史、金史、元史、新元史、明史及び清史稿、以上十五種の食貨志を採り、之に永樂大典の大元倉庫記、大元氈罽工物記及び罪惟錄の一部を加へた。

二、今回の企ては各志を纏めて合編し以て浩瀚な二十五史其の他を繙くの勞を省かんとするにあつて、各項の詳註又は邦文譯等のことは目的外である。校合其の他に於いて遺誤脱漏尠からざるべきを恐れるが之が補正は他日に期したい。

三、本書の編者は松崎鶴雄氏である。攷證校定の事に従はるること數年、昭和十四年暮稿成るに及び、氏の好意により調査部に於いて上梓することとなつた。水谷前資料課長の時印刷に着手し、また校合に二年を費して茲に成書をみる。一言を卷首に題して刊行の辭とする次第である。

昭和十六年十一月

滿鐵調査部資料課長

菊 地

清

緒言

中國歷代の經濟政策を窺ふには、先づ二十四史中の食貨志に指を染むるが順序と思ひ、自ら揣らず二十四史及び清史の食貨志を彙輯して繙閲に便にせんと企てた。謏陋菲薄を以て蚊蟲山を負ふの笑は覺悟しながら數年を費した。粗漏杜撰を免れない所は、切に先進の匡謬を願ふ。

原本は手近かな五洲同文書局の二十四史を用ひ、全體を通じて、商務印書館影印百衲本二十四史、竹簡齋本二十四史、汲古閣本二十四史、殿版二十四史を對照し、更に史記は嘉業堂覆刻宋蜀大字本を、漢書は嘉業堂覆刻宋白鷺洲書院本、王先謙の漢書補注を對照し、晉書は劉承幹、吳士鑑合著の晉書斟注を、五代史は嘉業堂刻舊五代史を參照し、東華錄、二十四史校勘記、宋會要及び上海大光書局新印の食貨志を參照した。校訂にあつて雙方に理由があり又は數字の差が確證し得ないものは、欄外に附記した。諸處に略註を附して蛇足を添へた。二十四史に續くべき清の正史が未出のため、清史稿を採り、其の誤字誤植は食貨原稿抄本を借り、或は小竹文學士の校正にも従つた。

本書の印刷に際しては、滿鐵調査部諸君の多大なる俵助によつて成書に至つたことを特筆して深謝を表する。

史記平準書については、崔適の史記探源に喝破した如く、史記が出来た後に何人か漢書の食貨志を攙入したといふ疑はあるが、順序として編首に加へた。又永樂大典の數條及び四部叢刊中の罪惟錄の一部も加へた。此の外、會要、通考、地方志等々抽出すべきものが少くないが、老衰餘日なく後賢に俟つ所以である。

昭和十六年九月

松崎鶴雄

目次

緒言

史記平準書

漢書食貨志

上

下

晉書食貨志

魏書食貨志

隋書食貨志

舊唐書食貨志

上

下

新唐書食貨志

一

二.....	一三六
三.....	一四五
四.....	一五三
五.....	一六四
舊五代史食貨志.....	一七五
宋史食貨志.....	一八二
上一 農田.....	一八三
上二 方田 賦稅.....	二二三
上三 布帛 和糴 漕運.....	二三五
上四 屯田 常平義倉.....	二五九
上五 役法上.....	二八一
上六 役法下 振恤.....	二九九
下一 會計.....	三二八
下二 錢幣.....	三三八
下三 會子 鹽上.....	三五七
下四 鹽中.....	三七八
下五 鹽下 茶下.....	三九八
下六 茶下.....	四一七
下七 酒 院冶 鑾 香附.....	四三五

下八 商稅 市易 均輸 互市舶法.....四五四

遼史食貨志.....四七三

上.....四七三

下.....四七七

金史食貨志.....四八一

一 戶口 通檢推排.....四八一

二 田制 租賦 牛具稅.....四九三

三 錢幣.....五一〇

四 鹽 酒 醋 茶 諸征商 金銀稅.....五二七

五 權場 和糴 常平倉 水田 區田 入粟鬻度牒.....五四〇

元史食貨志.....五五一

一 經理 農桑 稅糧 科差 海運 鈔法.....五五一

二 歲課 鹽法 茶法 酒醋課 商稅 市舶 額外課.....五七二

三 歲賜.....五九九

四 俸秩 常平義倉 惠民藥局 市糴 賑恤.....六二七

五 海運 鈔法 鹽法 茶法.....六五二

附錄一 大元倉庫記.....六七一

附錄二 大元氈罽工物記.....六八〇

新元史食貨志.....六九二

一 戶口 科差 稅法	六九一
二 田制 農政	七〇〇
三 洞冶課 附 珠、玉、硝、礬、竹木	七〇九
四 鹽課	七一六
五 酒醋課 茶課 市舶課	七二九
七 常課 額外課 和糴和買 幹脫官錢	七三八
七 秒法	七四五
八 海運	七五五
九 官俸	七七一
十 賜資 _上	七八五
十一 賜資 _下	七九八
十二 賑恤 _上	八〇七
十三 賑恤 _下 入粟補官 內外諸倉 惠民藥局	八一九
明史食貨志	
一 戶口 田制	八四三
附錄 罪惟錄 屯田志、土田志	八五三
二 賦役	八六二
三 漕運 倉庫	八七五
四 鹽法 茶法	八八七

附錄 罪惟錄 鹽法志、茶法志	九〇六
五 錢鈔 坑冶 附 鐵冶 銅場 商稅 市舶 馬市	九一二
附錄 罪惟錄 典牧志	九三〇
六 上供採造 採造 柴炭 採木 珠池 織造 燒造 俸餉 會計	九五五
清史稿食貨志	九五三
一 戶口 田制	九五三
二 賦役 倉庫	九九一
三 漕運	一〇二一
四 鹽法	一〇五三
五 錢法 茶法 鑛政	一〇八四
六 征權 會計	一一〇九

史記平準書

漢 太史司馬遷撰

校一 嘉業堂
景宋獨大字
本に一の字
なし。

漢興接秦之弊。丈夫從軍旅。老弱轉糧餽。作業劇而財匱。自天子不能具鈞駟。而將相或乘牛車。齊民無藏蓋。(三)於是爲秦錢重難用。更令民鑄錢。(校一)一黃金一斤。約法省禁。而不軌逐利之民。蓄積餘業。以稽市物。物踊騰糶。米至石萬錢。馬一匹則百金。天下已平。高祖乃令賈人不得衣絲乘車。重租稅以困辱之。孝惠高后時。爲天下初定。復弛商賈之律。然市井之子孫。亦不得仕宦爲吏。量吏祿度官用。以賦於民。而山川園池市井租稅之入。自天子以至於封君湯沐邑。皆各爲私奉養焉。不領於天下之經費。漕轉山東粟。以給中都官。歲不過數十萬石。至孝文時。莢錢益多輕。(四)乃更鑄四銖錢。其文爲半兩。令民縱得自鑄錢。故吳諸侯也。以卽山鑄錢。(五)富埒天子。其後卒以叛逆。鄧通大夫也。以鑄錢財過王者。故吳鄧氏錢布天下。而鑄錢之禁生焉。匈奴數侵盜北邊。屯戍者多。邊粟不足給食當食者。於是募民能輸。及轉粟於邊者拜爵。爵得至大庶長。孝景時上郡以西旱。亦復脩賣爵令。而賤其價以招民。及徒復作得輸粟縣官。以除罪。益造苑馬以廣用。(六)而宮室列觀。輿馬益增脩矣。至今上卽位數歲。漢興七十餘年之間。國家無事。非遇水旱之災。民則人給家足。都鄙廩庾皆滿。而府庫餘貨財。京師之錢累巨萬。(七)貫朽而不可校。(八)太倉之粟。陳陳相因。充溢露積於外。至腐敗不可食。

衆庶街巷有馬。而阡陌之間成羣。而乘字牝者。僭而不得聚會。守閭閻者食梁肉。爲吏者長子孫。居官者以爲姓號。故人人自愛而重犯法。先行義而後紕恥辱焉。當是時。網疏而民富。役財驕溢。或至兼并。豪黨之徒。以武斷於鄉曲。宗室有土。公卿大夫以下。爭于奢侈。室廬輿服。僭于上無限度。物盛而衰。固其變也。自是之後。嚴助朱買臣等。招來東甌事兩越。江淮之間。蕭然煩費矣。唐蒙司馬相如。開路西南夷。鑿山通道千餘里。以廣巴蜀。巴蜀之民罷焉。彭吳賈滅朝鮮。置滄海之郡。則燕齊之間。靡然發動。及王恢設謀馬邑。匈奴絕和親。侵擾北邊。兵連而不解。天下苦其勞。而干戈日滋。行者賫。居者送。中外騷擾而相奉。百姓抗弊以巧法。財賂衰耗而不贍。入物者補官。出貨者除罪。選舉陵遲。廉恥相冒。武力進用。法嚴令具。興利之臣自此始也。其後漢將歲以數萬騎出擊胡。及車騎將軍衛青取匈奴河南地。築朔方。當是時。漢通西南夷道。作者數萬人。千里負擔饋糧。率十餘鍾致一石。散幣於邛僰以集之。數歲道不通。蠻夷因以數攻。吏發兵誅之。悉巴蜀租賦。不足以更之。乃募豪民田南夷。入粟縣官。而內受錢於都內。東至滄海之郡。人徒之費擬於南夷。又興十餘萬人。築衛朔方。轉漕甚遼遠。自山東咸被其勞。費數十百巨萬。府庫益虛。乃募民能入奴婢。得以終身復。爲郎增秩。及入羊爲郎始於此。其後四年而漢遣大將。將六將軍。軍十餘萬。擊右賢王。獲首虜萬五千級。明年大將軍。將六將軍。仍再出擊胡。得首虜萬九千級。捕斬首虜之士。受賜黃金二十餘萬斤。虜數萬人。皆得厚賞。衣食仰給縣官。而漢軍之士馬死者十餘萬。兵甲之財。轉漕之費不與焉。於是大司農陳藏錢。經耗賦稅既竭。猶不足以奉

校二 嘉業堂
本に滄海は
滄浪に作
る。

(十一)

(校二)

(十)

(九)

(十三)

校三 百納本
は二萬に作
る。嘉業堂
本は一萬に
作る。

巨萬。

戰士 有司言天子曰 朕聞 五帝之教 不相復而治 禹湯之法 不同道而王 所由殊路而建
德一也 北邊未安 朕甚悼之 日者大將軍攻匈奴 斬首虜萬九千級 留蹕無所食 議令民
得買爵 及贖禁錮免減罪 請置賞官 命曰武功爵 級十七萬 凡直三十餘萬金 諸買武功
爵 官首者試補吏先除 千夫如五大夫 其有罪又減二等 爵得至樂卿 以顯軍功 軍功多
用越等 大者封侯卿大夫 小者郎吏 吏道雜而多端 則官職耗廢 自公孫弘以春秋之義繩
臣下 取漢相 張湯用峻文決理爲廷尉 於是見知之法生 而廢格沮誹 窮治之獄用矣 其
明年 淮南衡山江都王 謀反迹見 而公卿尋端治之 竟其黨與而坐死者數萬人 長吏益慘
急而法令明察 當是之時 招尊方正賢良文學之士 或至公卿大夫 公孫弘以漢相布被 食
不重味 爲天下先 然無益於俗 稍驚於功利矣 其明年驃騎仍再出擊胡 獲首四萬 其秋
渾邪王率數萬之衆來降 於是漢發車二萬乘迎之 既至受賞賜 及有功之士 是歲費凡百餘
萬。

- (一) 索隱に、天子の駕は駟馬、其色は齊しく同じかるべし。今國家貧しくして、天子は鈎色の駟馬を具へることができぬ。
- (二) 蘇林曰く、蓋して藏める物がない。
- (三) 古今注に、秦の錢は半兩、徑一寸二分、重さ十二銖。
- (四) 如淳曰く、榆の實の莢の如し。
- (五) 索隱に、銅の出る山で錢を鑄る。
- (六) 索隱に、苑圃を増設し、厩を造つて馬を養ひ、馬の用途を廣める。
- (七) 韋昭曰く、巨萬は今の萬萬(億)。
- (八) 校は數へること。
- (九) 正義に、東甌は今の台州永寧である。南越は今の廣州南海、閩越は今の建州建安。
- (十) 漢書晉義に、鍾は六石四斗。

(十一) 應劭曰く、臨邛は樊に屬し、樊は樊爲に屬する。

(十二) 其後四年は元朔五年にあたる。

(十三) 韋昭曰く、陳は久しきなり。

(十四) 古今字詁に、躓は今の滯の字。

(十五) 索隱に、位が稍高いのは試補としてから本任用とするため。

(十六) 樂卿は爵(官位)の名。

(十七) 如淳曰く、廢格は天子の法で行はせぬこと。誹は上の行を非とすること、顔異反唇(不服を唱へる)のたぐひを謂ふ。

初先是往十餘歲。河決觀^(二)。梁楚之地。固已數困。而緣河之郡。隄塞河輒決壞。費不可勝計。其後番係欲省底柱之漕。穿汾河渠。以爲溉田。作者數萬人。鄭當時爲滑漕渠回遠。鑿直渠。自長安至華陰。作者數萬人。朔方亦穿渠。作者數萬人。各歷二三載。功未就。費亦各巨萬十數。天子爲伐胡。盛養馬。馬之來食長安者數萬匹。卒率掌者。關中不足。乃調旁近郡。而胡降者皆衣食縣官。縣官不給。天子乃損膳解乘輿。出御府禁藏以贍之。其明年。山東被水菑。民多飢乏。於是天子遣使者。虛郡國倉廩。以振貧民。猶不足。又募豪富人相貸假。尙不能相救。乃徙貧民於關以西。及充朔方以南新秦中。七十餘萬口。衣食皆仰給縣官。數歲假予產業。使者分部護之。冠蓋相望。其費以億計。不可勝數。於是縣官大空。而富商大賈。或蹠財役貧。轉轂百數。廢居居邑。封君皆低首仰給。冶鑄煮鹽。財或累萬金。而不佐國家之急。黎民重困。於是天子與公卿議。更錢造幣以贍用。而摧浮淫并兼之徒。是時禁苑有白鹿。而少府多銀錫。自孝文更造四銖錢。至是歲四十餘年。從建元以來用少。縣官往往卽多銅山而鑄錢。民亦間盜鑄錢。不可勝數。錢益多而輕。物益少而貴。有司言曰。古者皮

校一 嘉業堂
本に多の字
なし。

校二 漢は、
に紫に作
る。

校三 嘉業堂
本に事は幸
に作る。

幣。諸侯以聘享。金有三等。黃金爲上。白金爲中。赤金爲下。今半兩錢法重四銖。而姦或盜摩錢裏取鉛。錢益輕薄而物貴。則遠方用幣。煩費不省。乃以白鹿皮方尺。緣以藻績。(校二)爲皮幣。直四十萬。王侯宗室朝覲聘享。必以皮幣薦璧。然後得行。又造銀錫爲白金。以爲天用莫如龍。地用莫如馬。人用莫如龜。故白金三品。其一日重八兩圓之。其文龍。名曰白選。直三千。二曰重差小方之。其文馬。直五百。三曰復小橢之。其文龜。直三百。令縣官銷半兩錢。更鑄三銖錢。文如其重。盜鑄諸金錢。罪皆死。而吏民之盜鑄白金者。不可勝數。於是以東郭咸陽孔僅爲大農丞。領鹽鐵事。桑弘羊以計算用事侍中。(校三)咸陽齊之大煮鹽。孔僅南陽大冶。皆致生累千金。故鄭當時進言之。弘羊雒陽賈人子。以心計年十三侍中。故三人言利。事析秋毫矣。法既益嚴。吏多廢免。兵革數動。民多買復及五大夫。徵發之士益鮮。於是除千夫五大夫爲吏。不欲者出馬。故吏皆通適。令伐棘上林。(四)作昆明池。其明年。大將軍驃騎大出擊胡。得首虜八九萬級。賞賜五十萬金。漢軍馬死者十餘萬匹。轉漕車甲之費不與焉。是時財匱。戰士頗不得祿矣。有司言三銖錢輕。易姦詐。乃更請諸郡國鑄五銖錢。周郭其下。令不可磨取鉛焉。大農上鹽鐵丞孔僅咸陽言。山海天地之藏也。皆宜屬少府。陛下不私。以屬大農佐賦。願募民自給費。因官器作煮鹽。官與牢盆。(五)浮食奇民。欲擅管山海之貨。以致富羨。役利細民。其沮事之議。不可勝聽。敢私鑄鐵器煮鹽者。鈇左趾。(六)沒入其器物。郡不出鐵者。置小鐵官。便屬在所縣。使孔僅東郭咸陽乘傳。舉行天下鹽鐵。作官府。除故鹽鐵家富者爲吏。吏道益雜不選。而多買人矣。商賈以幣之變。多積貨逐利。於是公卿言。

郡國頗被菑害。貧民無產業者。募徙廣饒之地。陛下損膳省用。出禁錢以振元元。寬貸賦而民不齊出於南畝。商賈滋衆。貧者蓄積無有。皆仰縣官。異時算輶車。賈人緡錢。皆有差。請算如故。諸賈人末作賁貸。買居邑稽諸物。及商以取利者。雖無市籍。各以其物自占。率緡錢二千而一算。諸作有租及鑄。率緡錢四千一算。非吏比者。三老北邊騎士^(七)。輶車以一算。商賈人輶車二算。船五丈以上一算。匿不自占。占不悉^(八)。戍邊一歲。沒入緡錢。有能告者。以其半畀之。賈人有市籍者。及其家屬。皆無得籍名田。以便農。敢犯令。沒入田僮。天子乃思卜式之言。召拜式爲中郎。爵左庶長。賜田十頃。布告天下使明知之。初卜式者河南人也。以田畜爲事。親死。式有少弟。弟壯式脫身出。分獨取畜羊百餘。田宅財物盡予弟。式入山牧。十餘歲羊致千餘頭。買田宅。而其弟盡破其業。式輒復分予弟者數矣。是時漢方數使將擊匈奴。卜式上書。願輸家之半縣官助邊。天子使使問式欲官乎。式曰。臣少牧不習仕宦。不願也。使問曰。家豈有冤欲言事乎。式曰。臣生與人無分爭。式邑人貧者貸之。不善者教順之。所居人皆從式。式何故見冤於人。無所欲言也。使者曰。苟如此。子何欲而然。式曰。天子誅匈奴。愚以爲。賢者宜死節於邊。有財者宜輸委。如此而匈奴可滅也。使者具其言入以聞。天子以語丞相弘。弘曰。此非人情。不軌之臣。不可以爲化而亂法。願陛下勿許。於是上久不報式。數歲乃罷式。式歸復田牧。歲餘會軍數出。渾邪王等降。縣官費衆倉府空。其明年貧民大徙。皆仰給縣官。無以盡贍。卜式持錢二十萬。予河南守以給徙民。河南上富人助貧人者籍。天子見卜式名識之。曰是固前而欲輸其家半助邊。乃賜式外繇^(九)四百人。式又